

まちの話題

「棚田のオーナー田植えを体験

5月2日「日本棚田百選」に選ばれている北山地区の上代田棚田、「ぎふの棚田21選」に選ばれた赤薙棚田で、公募で集まった47組約180名の「棚田オーナー」が田植えの体験をしました。

参加者は、はじめに各棚田で植え付けの指導を受けた後、田んぼに入り手作業で田植えを始めました。初めて参加した人たちは慣れない手つきで植えていきましたが、続けて参加しているオーナーは手慣れた手つきで田植えをしました。田植えにかかった時間は約2時間。稲の品種は主に「あきたこまち」「コシヒカリ」を植えました。

素足で田んぼに入った参加者からは、「冷たくて感触が気持ちいい」などと笑顔で話していました。



田植えを体験する棚田オーナーの皆さん

「とれたてワラビを売りました



ワラビ販売の様子

5月5日潮南郵便局近くの山の直売所で、八百津東部中学校の女子生徒5人が、早朝に自分たちで収穫したワラビを販売しました。

これは、八百津町青少年育成協議会潮南支部(支部長 柘植勝一さん)が、子供たちがワラビの採取から販売まで体験することで、自然(山)の恵みに感謝すること、働くことの喜び、人とのふれあい、そしてお金の大切さを実感してもらおうということで計画しました。

生徒らは、朝約1時間かけて、「グループSHIONAMI 代表 柘植満義さん」が整備をしたわらび園でワラビを収穫し、商品にするため、体裁を整えて店頭に並べ販売しました。

体験を終えた生徒らは「お金を稼ぐ苦労がわかった」「ワラビが採れたときの喜びと売れたときの喜びが体験できてよかった」と感想を述べていました。

「感謝の気持ちを込めて奉仕作業

5月9日蘇水公園野球場で、八百津中学校野球部員35名と保護者がグラウンド整備を行いました。球場は、平成8年に土の入れ替えを行っていますが、現状はデコボコが目立ち、雨天後には各所に水たまりができ、グラウンドコンディションが良くない状態でした。

当日は気温が30度にもなる暑い中、何度もレーキ等で土をかき、一輪車で土を運び、ローラーで踏み固めました。野球部員は中体連等の大会を控え、貴重な練習時間を割いてのグラウンド整備に、真剣に取り組んでいました。球場内は、見違えるようにきれいになりました。



ていねいにグラウンドを整備しました